

上ノ廊下遊行

【期間】 平成28年9月1～3日

【メンバー】 Y川、T

【概要】

9月1日 晴れ時々曇り

前日に扇沢 P で仮眠し、朝一番で黒四ダムに入る。すでに放水しており、やはり水量が多いのかと気になる。左岸沿いの水平道を辿り、11時過ぎには平ノ小屋に到着した。小屋の主人は、「多少増水しているだろうがたいしたことはないだろう」、とあいまいな事を言っていた。12時の便で、客は我々の他に上ノ廊下単独、ハイカー2名の計5名であった。奥黒部ヒュッテには2時過ぎに到着、小屋の主人は、「まだ見に行っていないが、台風による増水はたいしたことないのではないか」、と言っていた。また、エスケープルートはスゴ沢および金作谷であること、今年のお盆は水量が少なく、ほとんどのパーティが抜けたこと、等を教えてもらう。しかし、東沢谷の水量は2年前の夏より多いように感じ、不安になる。小屋には有名な S ガイドの今年の遊行図が貼ってあり、しばらく眺めていたが良く理解できなかった。部屋は個室でゆっくり休めた。

黒四ダム 8時10分発 平ノ小屋 11時10分 奥黒部ヒュッテ 14時15分

9月2日 晴れ時々曇り

さすがに朝は寒く、予定より1枚多く着込んで出発する。単独行者はまだ出発していなかった。広い河原を辿り、最初の徒渉を行う。ロープ無しで徒渉でき、まずは安心する。左岸に壁が聳える下の黒ビンガは腹あたりまでの徒渉で通過し、口元ノタル沢が合流するとゴルジュである。ここは、後から S ガイドの報告と照合して合点したのだが、昨年までは無かった直径5mほどの大岩が左岸側瀑流のすぐ下に鎮座している。右岸側水流は速いので、左岸を泳ぎながらへつり、大岩に上がる。大岩の前方は瀑流帯から落ちた水が渦を巻いているが、よく見ると底の岩が見えており、また瀑流帯落ち口までは石伝いに行けそうである。そうしようかと考えていると、単独行者が先に行ったので、我々はロープを使わずに瀑流帯の落ち口左岸側に抜けた。ここから先は進めず、右岸に徒渉する必要があるが流れは速く深い。単独行者は、一度トライしたそうだが失敗して流され、ロープを取り出して何か準備をしている。ここは上流側から T さんにビレーしてもらい、空身で泳ぎ徒渉を試み、二回目に対岸に上がった。多分、単独行者は怖くなって我々を待っていたのであろう。昨年ここで単独行者が亡くなっており、右岸岩壁のへこんだ一角に青いヘルメットや何かが見えるのは、その方のものが回収されずそのままなのであろう。あれを見ると単独ではひるむのも無理はない。単独の方の荷物も渡してあげ、各自空身になって渡った。とりあえずの難場は通過したので、少し落ち着いた気分になる。以後、たまにロープを使った徒渉で、ほとんどスクラム徒渉で進むと、広河原に至る。淡々と歩いて行くと、前方に上ノ黒ビンガの岸壁が迫ってくる。上ノ黒ビンガは徒渉の繰り返したが、大きなプレッシャーは感じずに通過でき、順調に進むことができた。金作谷出合いは12時過ぎ着、体力的に余裕があり、天気の良い中に進んでおきたいため、先に進むこととする。単独行者は、金作谷出合い先の砂地でビバークするとのこと。我々よりずっと薄着で、体力の消耗が激しかったためであろう。

上ノ黒ビンガから先はさほど難しい所は無いと考えていたが、甘かった。むしろここからが難しく、淵が断続的に出現し、そのたびに徒渉、泳ぎ、へつりを繰り返す。また淵の間には瀑流帯がはさまっており、ルートファインディングに神経を使う。ここをクリアしてしばらく行くと、赤牛沢手前から始まるゴルジュ帯に入り、再び泳ぎ、へつり、徒渉を繰り返す。水量は減ってきているのであろうが、あいかわらず瀑流帯での水勢はたいしたもの、近づく気になれない。やがて、通称スゴの淵に到着する。右岸側から左

岸側に水が落ちているため、左岸側の流れは速い。しかし左岸側の奥には岩棚が見え、そこに行くことができれば水線を通り過ぎそうである。そこで、まず立った右岸側を、浮かびながらへつって行く。真ん中付近では背が届く、との報告があり、それは小屋に貼ってあった今年度の S ガイドの遡行図でも同じであった。しかし、今日の淵は深くて底は見えない。多分、大雨のたびに水深は変化するのであろう。浮かびながら水流に逆らい行けるところまでへつり、左岸へ向かう流れに乗って泳ぐ。左岸で適当なホールドを見つけてつかまねばならないが、一回目のトライで上手くつかめた。体勢を整え、ホールドだよりのへつりに移る。油断すると水流に引きはがされてしまうので、慎重にホールドを捜して進んだ。やがて岩棚に到着、ここからは予想どおりたやすく淵を抜けることができた。以後で難しかった箇所は、岩苔小谷を過ぎた所で、瀑流帯をどうしても渡らねばならなかった所である。流されるのを覚悟で岩から岩に飛び移るのであるが、三回目になんとか岩にしがみつき、ヒールフックで岩の上に乗り込んで成功した。

やがて前方に落差 3 m ほどの瀑流帯と、その奥の淵が見えてきた。難しそうであり、どうしようかと考えていると、左岸に巻けそうな箇所が目についた。壁はさほど立っておらず、小さな巻きで行けそうである。そこで、ここは巻くこととする。予想通り巻きは小さく、一部ロープを使えばさらに小さく巻けそうであったが、そのまま上の淵を巻いて淵の上流に抜けた。先には河原が広がっており、ようやくゴルジュ帯は終了した。しばらく辿ると立石奇岩で、記念撮影の後ビバーク地を探す。しかし谷幅は狭く、適当な所はしばらく見当たらない。さすがに疲れも出てきて、歩みも進まない。右から入る谷を過ぎて左に曲がると、前方に広い河原が見えた。たき火の跡などある快適な河原で、砂地の上にタープを張った。

奥黒部ヒュッテ 5時50分発 金作谷出合 12時10分 立石奇岩先の河原 17時30分

9月3日 晴れ

難しい所は終了しているので、ゆとりのある朝を迎えることができた。朝の早い時間帯の泳ぎは体力的にきついので、昨日頑張ってゴルジュ帯を通り過ぎたのが良かった。深くて腰あたりまでの徒渉を繰り返すが、さすがに水圧は下がっている。怖さはさほど感じないが、依然大峰や台高の沢では経験しない水圧ではある。やがて、前方右岸に登山者の姿が見え、大東新道が合流する。この地点では、深く速い流れを左岸から右岸に渡るのだが、このみロープを使い徒渉した。思ったより流されずに対岸に渡れた。しばらくで、見覚えのある赤い吊り橋と薬師沢小屋が見えてきた。小屋には9時10分に到着、まだ早いので本日中に下山して富山市内に宿泊し、翌日車を回収することとした。

立石奇岩先の河原 6時35分発 薬師沢小屋 9時10分 太郎小屋 12時10分折立 15時30分



下ノ黒ビンガ上流の流れ



口元ノタル沢合流過ぎのゴルジュ



上ノ黒ビンガを振り返る



美しい流れ



お決まりのポーズ